

2019

5年 ティーボール

松戸市立八ヶ崎小学校

ティーボールは・・・

攻守を交代しながら、一定の回数内で得点を競い合うベースボール型のゲームである。攻撃側は打撃や走塁によって攻め、守備側は捕球や送球によって攻撃側の走塁を阻止していく。様々な状況を判断しながら、技術的・戦術的な対応を迫られる場面が多い運動である。

児童から見ると・・・

一人一人に攻撃の回数が確保されているため、全員に得点できるチャンスがある。

バッティングスタンドを使用することで、止まったボールを打つことができる。

➡ **親しみやすい**

ルールやゲーム中の状況判断を伴った技能が複雑で難しい

➡ **苦手意識に繋がってしまう**

学習カード

教材

学習過程

本校では・・・

☆ **打ち方を工夫して進塁をねらう攻撃側と、隊形を工夫し協力して進塁を防ぐ守備側による攻防が展開されるゲームを、主体的・対話的で深い学びを通して実現する。**

《ルール》

☆始めから提示するルール ⇒ シンプルなものにする

《攻撃側》

- ・打者はボールを打ったら、ボールを持った守備がアウトゾーンへ先回りして「アウト！」と声をかけるまで、ひたすら塁間を走り続ける。
- ・アウトゾーンへ先回りした守備よりも、打者が先にベースを踏んだ塁が得点となる。
- ・1 塁まで踏めたら 1 点、2 塁まで踏めたら 2 点、3 塁まで踏めたら 3 点、本塁まで踏めたら 4 点とする。 ・ランナー(残塁)はなし。 ・打順が一巡したら、攻守交代する。
- ・三振はなし。ファールもなし。

《守備側》

- ・内野 2 人と外野 2 人に分かれ、4 人で守る。
- ・内野は外野に、外野は内野に行き来できない。
- ・打球を捕ったら、打者を先回りできるアウトゾーンへボールを運び、「アウト！」と声をかける。 ・捕球した人は動けず、パスでボールをつなぐ。

★追加の可能性のあるルール

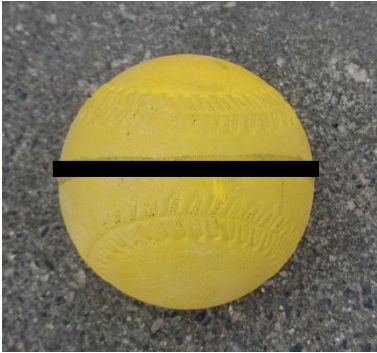
⇒児童の困り感・必要感に応じて、教師が提案・追加する。

児童の困り感	追加のルール	個人やチームのメリット
・ルールを工夫して、もっと得点できるようにしたい。	《攻撃側》 ・打者走者は、本塁を踏んだら 2 周目を走ってよい。(最大 8 点)	・たくさん走ることで、より多くの得点ができる。 ・守備側は途中であきらめずにアウトゾーンにつなぐことができる。
	《守備側》 ・ノーバウンドでボールをキャッチすることができたら、ボーナス 1 点。	・得点をとるためにより速くボールを捕ろうと動き、守備の意欲が高まっていく。
・ボールが遠くまで打たれたときに内野までパスをつなげない。	《守備側》 ・チームで 1 人、内外野を行き来できるプレーヤーを設定する。 ・打者に応じて、内野と外野の人数を変えてよい。	・より早くアウトゾーンに運ぶための役割を自由に変えてプレーすることができる。 ・打者に応じた守備隊形をとることができる。

※単元前半で安定した攻防ができるようにルールを工夫し、単元後半で各チームの得意な攻撃や打者に応じた守備を実践できるようにする。

《教具・用具》

・ボール



ボールの中心を意識させることとストッキングに半分入れる目安にするため、ボールの中心に黒い線を引いた。

使用球

ケンコー ティーボール
(12インチ)

・バット

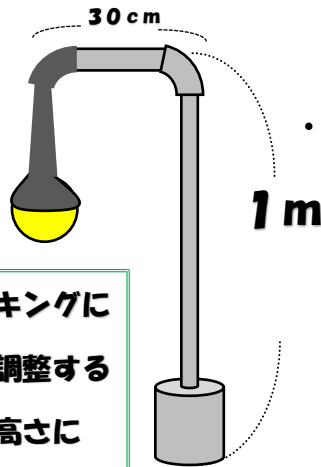


ケンコー ティーボールバット

[S(赤 中学年向き)・M(黄 高学年向き)]

テニスラケット [打ちやすくするため]

・バッティングスタンド



ボールの上半分をストッキングに入れる。ストッキングを調整することで自分の打ちやすい高さに変えられるようにした。

・得点板、ベース、ホース3m(アウトゾーン)



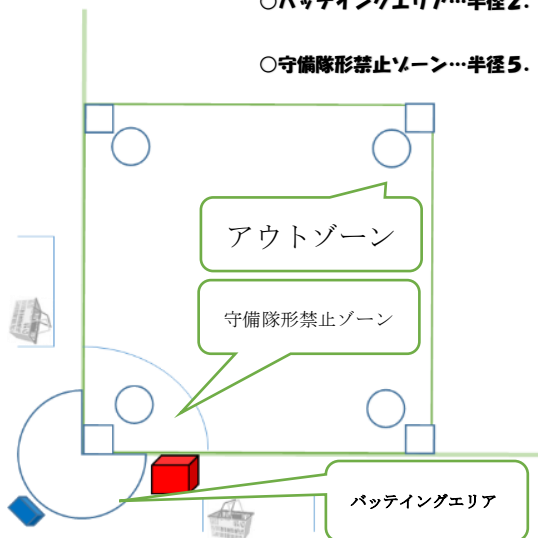
打った後にバットを入れる箱。段ボールを傾けてバットが入りやすいようにした。

《コート》

○塁間…15m

○バッティングエリア…半径2.5m

○守備隊形禁止ゾーン…半径5.5m



- ・作戦ボード
- ・マーカーペン
- ・ポケットファイル(作戦ファイル)
(作戦カード、ルールブック、授業で掲示した写真等)
- ・個人の学習カード
- ・水筒



・カゴの中身



教具の作り方や材料の値段などについては、本校までお問い合わせください。

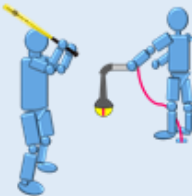
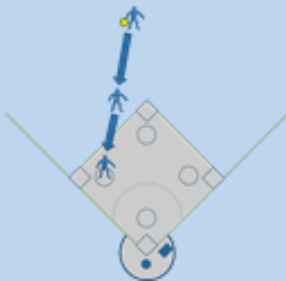
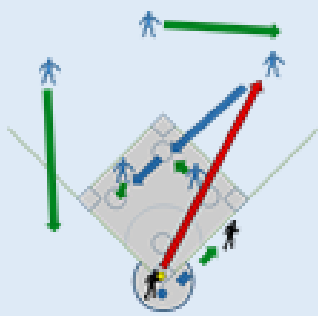

指導計画 『ティール』(9時間)

時間	1(はじめ)	2	3	4	5	6(なか)	7(本時)	8	9(おわり)
	知識の獲得, 技能の向上					自分たちの考えた得意な作戦やチームの特徴に合った作戦を考案・精選し実行する。			
0	オリエンテーション ・単元を通じた学習のねらい ・ゲームの行い方の説明 ・学習のルール ・用具の扱いについて ・試しのゲーム ・課題をつかむ(チームの課題)	・あいさつ ・準備 ・ウォーミングアップ							
7		・健康観察 ・課題確認 ・作戦の確認(※6時間目以降)							
10		ゲーム① リーグ戦							ペアチーム と試合
18		<課題解決学習> 児童の困り感に応じて, 教師が動き方のポイントを押さえて指導する。 <予想される課題> 打撃				<課題解決学習> チームの課題にあった解決方法を選択できるようにする。 <予想される課題> 捕球・投球		<課題解決学習> チームの課題にあった解決方法を選択できるようにする。 <予想される課題> チームの特徴に応じた守備	
		<予想される練習方法> 繰り返しバッティング				<予想される練習方法> つないで運べ! スローベースボール		<予想される練習方法> ゲーム形式での練習	
30		ゲーム② リーグ戦							ペアチーム と試合
38									
45	・反省(学習カード記述)※単元のはじめ(1時間目), なか(6時間目), おわり(9時間目)については記述内容の変容を見取るため記述時間を5分とし, それ以外は3分とする。 ・まとめ ・クールダウン ・片付け ・あいさつ								

体育の学力(評価規準)

知識・技能	ボール操作	<ul style="list-style-type: none"> ①止まったボールをバットやテニスラケットでフェアグラウンド内に打つことができる。 ②捕球する相手に向かって、投げることができる。
	ボールを持たないときの動き	<ul style="list-style-type: none"> ③打球方向に移動し、捕球することができる。 ④塁間を全力で走塁することができる。 ⑤守備の隊形をとって得点を与えないようにすることができる。
思考・判断・表現		<ul style="list-style-type: none"> ①攻守に応じて動くことができる範囲を設けてプレイするなどのルールを選んでいる。 ②チームの特徴に応じた作戦を選び、自己の役割を確認している。 ③自チームや相手チームの守備位置のよさについて、動作や言葉、絵図などを使って、他者に伝えている。
主体的に学習に取り組む態度		<ul style="list-style-type: none"> ①簡易化されたゲームや練習に積極的に取り組もうとしている。 ②ルールやマナーを守り、仲間と助け合おうとしている。 ③ゲームを行う場の設定や用具の片付けなどで、分担された役割を果たそうとしている。 ④ゲームの勝敗を受け入れようとしている。 ⑤ゲームや練習の中で互いの動きを見合ったり、話し合ったりする際に、仲間の考えや取組を認めようとしている。 ⑥ゲームや練習の際に、使用する用具などを片付けたり、場の整備をしたいするとともに、用具の安全に気を配っている。

課題解決のために必要と予想される練習方法

①	<p>繰り返し バッティング</p>	<p>一人がバッティングスタンドを手に持ち打つ。何度もボールを打つことで、「力強くボールを打つ」「ねらった方向にボールを打つ」技能を身に付けることを目的とする。</p> 
②	<p>つないで 運べ!</p>	<p>守備側がボールを捕球した後を想定して行う。ねらったアウトゾーンへ一直線に並び、間に入ったりカバーしたいしながら、協力してボールを運ぶ。「ねらった相手へボールを投げる」「隊形をとった守備から協力して高得点を与えないようにする」技能を身に付けることを目的とする。</p>  <p>※左図は、外野が捕球後、3塁のアウトゾーンをねらうと想定した場合。</p>
③	<p>スロー ベースボール</p>	<p>攻撃側はボールを打つ代わりに投げてベースを回る。守備側は飛んできたボールを捕球して、先回りできるアウトゾーンへ協力してボールを運ぶ。攻撃側は「ねらったところ(相手)へボールを投げる」「塁間を全力で走る」技能を、守備側は「ボールの正面に入って捕球する」「ねらった相手へボールを投げる」「隊形をとった守備から協力したプレーで高得点を与えないようにする」技能を身に付けることを目的とする。</p>  <p>※左図は、外野が捕球後、3塁のアウトゾーンをねらった場合。</p>
④	<p>実戦形式 での練習</p>	<p>ゲームと同様に行う。「チームの特徴に応じた作戦や役割行動(一人一人の動き方)を確認したり、その動きを身に付けたいする」ことを目的とする。</p> 

展開 1 (1時間目 オリエンテーション)

- ・「これならできそう」「やってみたい」と学習に取り組むことができるようにする。※教材との出会いが大切
- ・単元を通してのねらいを伝え、学習のめあてをもつことができるようにする。
- ・用器具の扱い方・場づくりについて指導する。
- ・ティーボールにおけるルールを指導する。※複雑すぎないように

時配	過程	・学習内容と活動 ○指導と支援
20	あいさつ (整列)	<ul style="list-style-type: none"> ○大きな声で元気のよいあいさつで学習が始められるように伝える。 ○整列、集合場所、並び方、服装、持ち物の置き場所について確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ビブスはズボンにしまう。 ・紅白帽は後ろ向きにする。 ・ミサंगाやピンを外す。
	健康観察	<ul style="list-style-type: none"> ○顔色を観る。季節によっては水分補給するよう指示する。
	オリエンテーション 課題確認	<ul style="list-style-type: none"> ・単元を通じた学習の課題を知る。 ・学習の内容やねらい、進め方を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ティーボールの学習を楽しむためには、どんなことが上手になるとよいだろうか。</p> </div>
	試しのゲームについての説明	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の課題を提示し、ゲームを通してチームの課題を見付けることを伝える。個人の課題ではなく、チームとしてどのような課題があるのかを考えられるように、声や気合いなどの態度面ではなく、技能面での課題をチームで見付けられるよう支援する。 ○試しのゲームはペアチームと2試合行うことを説明する。 ○ゲームのルールについて以下の内容を説明する。 <ul style="list-style-type: none"> 《攻撃側》 ・打者はボールを打ったら、ボールを持った守備がアウトゾーンへ先回りして「アウト！」と声をかけるまで、ひたすら塁間を走り続ける。 ・アウトゾーンへ先回りした守備よりも、打者が先にベースを踏んだ塁が得点となる。 ・1塁まで踏めたら1点、2塁まで踏めたら2点、3塁まで踏めたら3点、本塁まで踏めたら4点とする。 ・ランナー(残塁)はなし。 ・三振はなし。ファールもなし。 ・打順が一巡したら、攻守交代する。

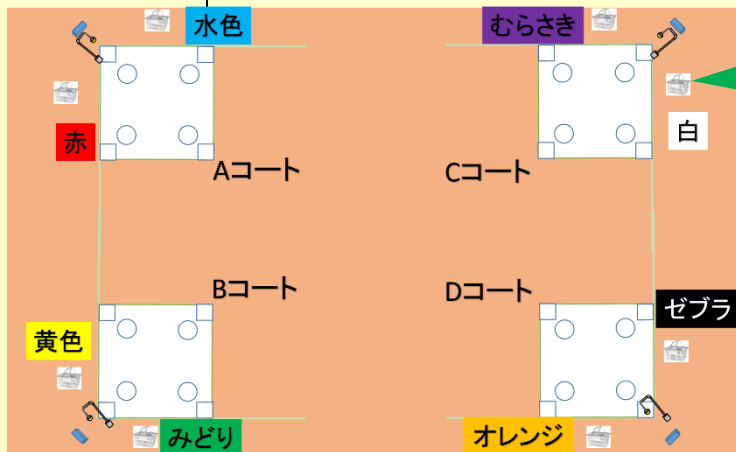
《守備側》

- ・内野 2 人と外野 2 人に分かれ、4 人で守る。
- ・打球を捕ったら、打者を先回りできるアウトゾーンへボールを運び、「アウト！」と声をかける。
- ・捕球した人は動けず、パスでボールをつなぐ。

学習の場、用具の準備をする

○ベース、バッティングスタンド、得点板などの運び方や運ぶ場所などを確認する。

※所定の場所に置くことを確認し、運び役割を決める。



カゴや得点板は、コートから3m離す

ウォーミングアップ(ボール慣れの運動を含む)

○単元を通して、教師のかけ声に合わせてウォーミングアップをするため、広がり方や内容等を確認する。

- ・ティーボールで特に使う部位（手の指、手首、肩、足首、アキレス腱など）を十分ほぐす。

ボール慣れの運動

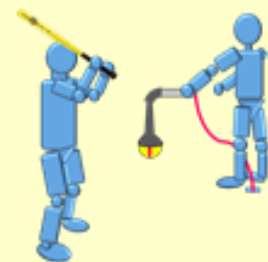
① キャッチボール

キャッチするときはボールに対して正面に入ることを指導する。

② 繰り返しバッティング

2人組になってバッティングを行う。

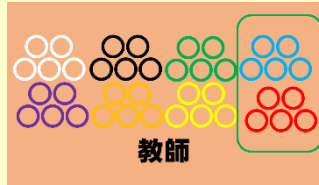
何度もボールを打つことで、「力強くボールを打つ」「ねらった方向にボールを打つ」技能を身に付けることを目的とする。



- ・2時間目以降は、用具の準備をしてからウォーミングアップに入るが、1時間目は、ウォーミングアップ終了後、一度集合し、皆で用具の準備をする。

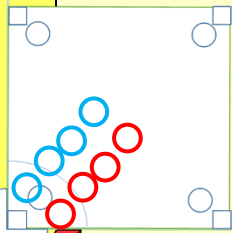
18

集合の隊形



チームで話し合いがしやすい集合隊形にする。ペアチームで縦に並ぶ。

チームでの確認
試しのゲーム①



ルール確認

試しのゲーム②

7 振り返り

- ① チームでの話し合い
- ② 個人で学習カードに記入
- ③ 学習のまとめ (成果と課題)
- ④ 発表をする

片付け

クールダウン

あいさつ

○各チームのホームコートに移動し、試合に出るメンバーの確認をするように指示をする。

ゲームを始める前と終わった後のルール

- ・ホームベース前に全員並ぶ。
- ・笛の合図で「お願いします!」と言い、相手と握手をする。
- ・コート内で円陣を組んで気合を入れる (チームごとのファイトコール)。
- ・攻撃が全員終わったら、攻守交代。
- ・攻守が1回ずつ終わったらホームベース前に並ぶ。「ありがとうございました!」と言い、相手と握手をする。

・ルールで困ったことの確認。

○水分補給と休憩をしながら、次のゲームに向けての確認できるよう、話し合いの手順に沿って話を進めるように指示する。

○説明を聞くために、はじめの形に整列するよう指示を出す。整列と集合の違いについて、必要に応じて説明する。

○攻撃に関して、何がどのようにうまくいったのか、うまくいったときはどんな状況だったのかということを書き具体的に書くことができるよう支援して回る。

○チームの課題について、話し合ったことを発表できるよう、チームごとに指名をする。

○各自が見付けた課題を全体で共有し合うとともに、ゲームで勝つためにはたくさん得点をとる必要があることに気付くことができるように指導する。また、攻撃に対する課題意識をもつことができるように、発問の仕方に気を付ける。

○安全に留意し、役割分担をして素早く片付けるように指導する。

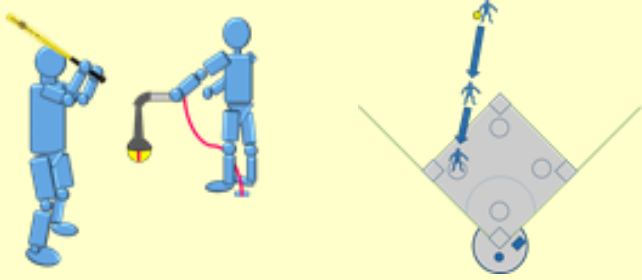
○怪我の有無を確認するとともに使った部位を中心にほぐすよう指導する。

- ① 伸び ② 肩回し ③ 手首足首 ④ 深呼吸

○毎時間、元気よくあいさつをして終わることができるよう伝える。

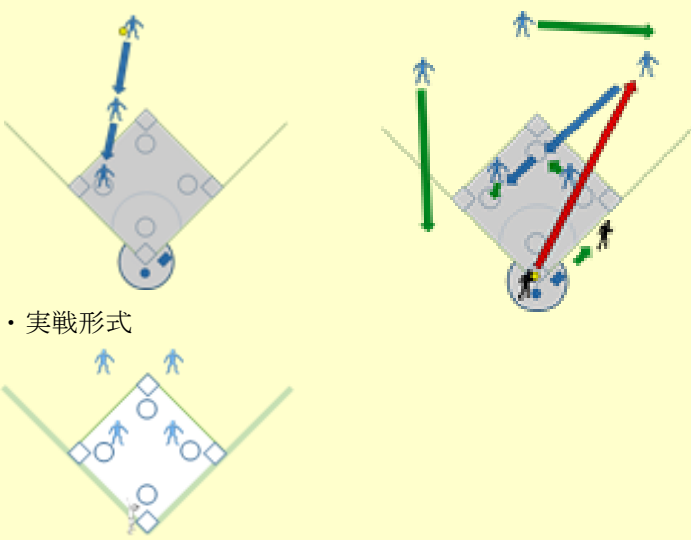
展開2 (2～5時間目)

時配	過程	・学習内容と活動 ○指導と支援
7	あいさつ 学習の場の準備 ウォーミングアップ ・ストレッチ ・ボール慣れの運動 健康観察	○大きな声で元気のよいあいさつで学習が始められるように伝える。 ○素早く安全に気を付けて準備ができるように、役割分担を決めておく。 ・ストレッチ(使う部位を中心に) ・キャッチボール ・繰り返しバッティング ○顔色を観る。季節によっては水分補給するよう指示する。
31	課題確認 ・学習カードを持って集合する 作戦会議 ゲーム① 課題解決学習 ①整列し教師の話聞く。 ②チームで話し合	・学習カードに記述した前時の課題とそれに対する教師のコメントを読んで、見通しをもってからゲームに臨む。 ・新たなルールの確認。 ○何人かを指名して、ゲームで何を意識して取り組むかを発表させ、本時のめあてを再確認する。 ・学習カードのコメントを読んでから各コートへ行く。 < 2時間目 > ボールを強く打つには、どうすればよいだろうか。 < 3時間目 > 『ピュン!』と音になるようにバットを振るには、どうすればよいだろうか。 < 4時間目 > ねらったところへボールを飛ばすには、どうすればよいだろうか。 < 5時間目 > 打球がぬけないようにするには、どうすればよいだろうか。 ○時間が1分と短いので、簡単な確認でよいことを伝える。 ○よいプレーがあったときには、全員に聞こえるように大きな声で褒めて、何が良かったのかを具体的に知らせることで、全体に共有する。 ○素早く行動してたくさん動けるよう声をかけて回る。 ○ゲームの前に確認した状況があったのかどうか、また、そのようなときにどうしたのかを話し合う。また、新たに明らかになった課題についても時間があれば話し合うよう伝える。 ○話合いが停滞しているチームに対しては、課題を確認できるよう教師が主

	<p>いをする。</p> <p>③集合しチームごとの課題を確認する。</p> <p>④課題を解決するための練習をする。</p>	<p>導でうまくいったことと、うまくいかなかったことを確認し合うよう伝える。</p> <p>○児童の課題に応じて教師が練習メニューを紹介する。</p> <p>・繰り返しバッティング ・つないで運べ！</p>  <p>○共通課題の後に時間があれば、チームごとに練習を選ぶよう促す。</p>
ゲーム②		<p>○よいプレーや練習でやったことを生かしていたチームは大げさに褒めて、全体に共有する。また、他のチームも真似をすることができるよう、皆で喜んでいるチームを称賛する。</p>
7	振り返り	<p>○学習カードの項目に沿ってまずはチームで反省を行い、同じことを記入するように伝える。最後の個人の課題は、チームの課題を克服するために自分がどうなればよいのかということ自分で考えて書くように伝える。</p>
①	チームでの話し合い	<p>○「何が、どのように」と、具体的に書くことができるよう声をかけて回る。</p>
②	個人で学習カードに記入	<p>○本時のめあてに対して、他のチームがどのように振り返りを行っているのかをよく聞くように伝える。また、新たな課題にも気付くことができるようにするために、チームごとの課題を学級全体で共有し合う場を設ける。</p>
③	学習のまとめ（成果と課題）	
④	発表をする	
	片付け	<p>○安全に留意し、役割分担をして素早く片付けられるよう指導する。</p>
	クールダウン	<p>○怪我の有無を確認するとともに使った部位を中心にほぐすよう指導する。</p>
		<p>① 伸び ② 肩回し ③ 手首足首 ④ 深呼吸</p>
	あいさつ	<p>○毎時間、元気よくあいさつをして終わることができるよう伝える。</p>

展開3 (6時間目～9時間目)

時配	過程	・学習内容と活動 ○指導と支援
7	あいさつ 学習の場の準備 ウォーミングアップ ・ストレッチ ・ボール慣れの運動 健康観察	○大きな声で元気のよいあいさつで学習が始められるように伝える。 ・素早く安全に気を付けて準備ができるように、役割分担を決めておく。 ・ストレッチ(使う部位を中心に) ・キャッチボール ・繰り返しバッティング ・守備練習 (チームによって異なる) ○顔色を観る。季節によっては水分補給するよう指示する。
31	課題確認 ・学習カードを持って集合する 作戦会議 ゲーム① 課題解決学習 ①チームで話し合	○学習カードに記述した前時の課題とそれに対する教師のコメントを読んで、見通しをもってからゲームに臨む。 ・新たなルールの確認。 ○何人かを指名して、ゲームで何を意識させるのかを発表させ、本時のめあてを再確認する。 ・学習カードのコメントを読んでから各コートへ行く。 ＜6時間目＞ ボールをとった味方を助けるために、何ができるだろうか。 ＜7時間目＞ より早くアウトゾーンにボールを運ぶにはどうすればよいだろうか。 ＜8時間目＞ チームの全員が協力して失点を減らすには、どうすればよいだろうか。 ＜9時間目＞ チームの特徴を生かした攻め方や守り方でゲームを楽しむためにはどうすればよいだろうか。 ○時間が1分と短いので、簡単な確認でよいことを伝える。 ○よいプレーがあったときには、全員に聞こえるように大きな声で褒めて、何がよかったのかを具体的に知らせることで、全体に共有する。 ○素早く行動してたくさん動けるよう声をかけて回る。 ○ゲームの前に確認した状況があったのかどうか、また、そのようなときにどうしたのかを話し合う。また、新たに明らかになった課題についても時

	<p>いをする。</p> <p>②集合しチームごとの課題を確認する。</p> <p>③チームごとに練習をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を解決するための練習方法を自分たちで選ぶ。 ・ペアチームと協力して課題解決ができるようにする。
<p>ゲーム②</p>	<p>間があれば話し合うよう伝える。</p> <p>○話合いが停滞しているチームに対しては、課題を確認できるよう教師が主導でうまくいったことと、うまくいかなかったことを確認し合うよう伝える。</p> <p>○チームの課題に応じて教師が練習メニューを紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つないで運べ！ ・スローベースボール  <p>・実戦形式</p>
<p>7 振り返り</p> <p>①チームでの話し合い</p> <p>②個人で学習カードに記入</p> <p>③学習のまとめ (成果と課題)</p> <p>④発表をする</p> <p>片付け</p> <p>クールダウン</p> <p>あいさつ</p>	<p>○よいプレーや練習でやったことを生かしていたチームは大げさに褒めて、全体に共有する。また、他のチームも真似できるように、皆で喜んでいるチームを称賛する。</p> <p>○学習カードの項目に沿ってまずはチームで反省を行い、同じことを記入するように伝える。最後の個人の課題は、チームの課題を克服するために自分がどうなればよいのかということ自分で考えて書くように伝える。</p> <p>○「何が、どのように」と、具体的に書くことができるよう声をかけて回る。</p> <p>○本時のめあてに対して、他のチームがどのように振り返りをしているのかをよく聞くように伝える。また、新たな課題にも気付くことができるようにするために、チームごとの課題を学級全体で共有し合う場を設ける。</p> <p>○安全に留意し、役割分担をして素早く片付けられるよう指導する。</p> <p>○怪我の有無を確認するとともに使った部位を中心にほぐすよう指導する。</p> <p>① 伸び ② 肩回し ③ 手首足首 ④ 深呼吸</p> <p>○毎時間、元気よくあいさつをして終わることができるよう伝える。</p>